

報告事項

(令和7年度岡山県医療DX推進シンポジウムの開催結果について)

シンポジウムの概要

行事名

令和7年度岡山県医療DX推進シンポジウム
～これからの地域医療とオンライン診療を考える～

日時

令和8年1月10日（土）14時～16時

場所

岡山県医師会館 三木記念ホール

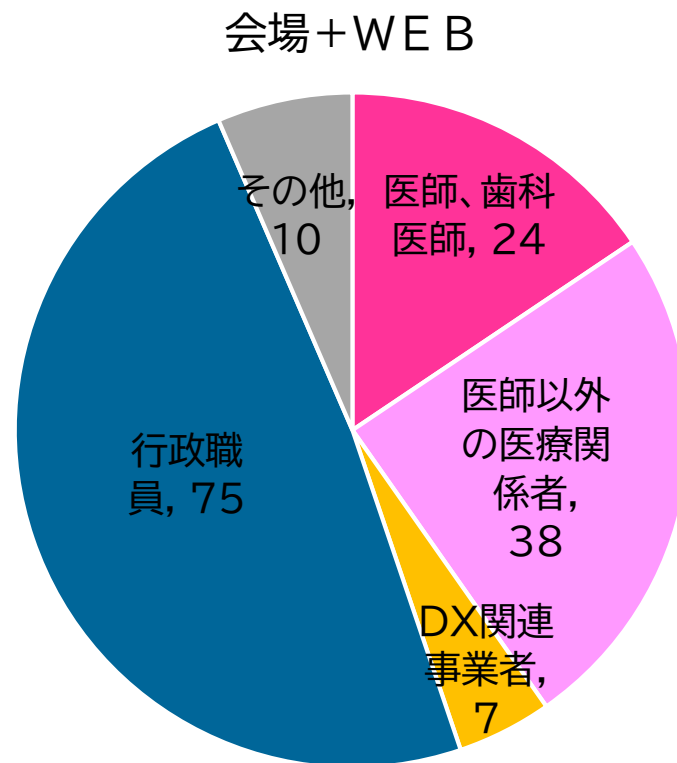
内容

- 開会あいさつ
岡山県医療DX推進協議会 会長 松山 正春 先生（岡山県医師会長）
- 基調講演
テーマ：「山口県の離島へき地におけるオンライン診療の取り組み」
講師：山口県立総合医療センター へき地医療支援センター長 原田 昌範 先生
座長：岡山県医療DX推進協議会 副会長 松本 健五 先生（岡山県病院協会理事）
- パネルディスカッション
テーマ：「岡山県におけるオンライン診療の導入可能性について」
パネリスト
 - ・山口県立総合医療センター へき地医療支援センター長 原田 昌範 先生
 - ・岡山県医師会 常任理事 合地 明 先生
 - ・大阪公立大学大学院情報学研究科 教授 安在 大祐 先生
 - ・奈義町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 植月 尚子 氏
- 閉会あいさつ
岡山県医療DX推進協議会 委員 辰巳 秀爾（岡山県保健医療部長）

参加人数及び属性

区分	会場	WEB	計
医師、歯科医師	6	18	24
医師以外の医療関係者	14	24	38
DX関連事業者	3	4	7
行政職員	45	30	75
その他	1	9	10
合計	69	85	154

※その他…議員、教員、保険者、医療・介護関係事業者など

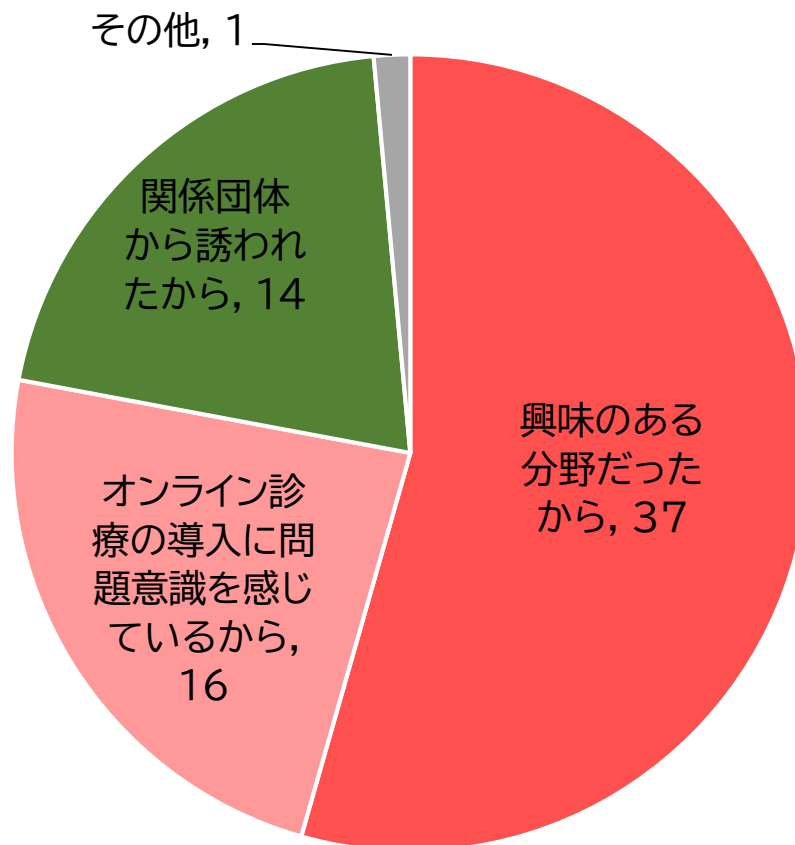


参加者アンケートの結果

参加者の属性

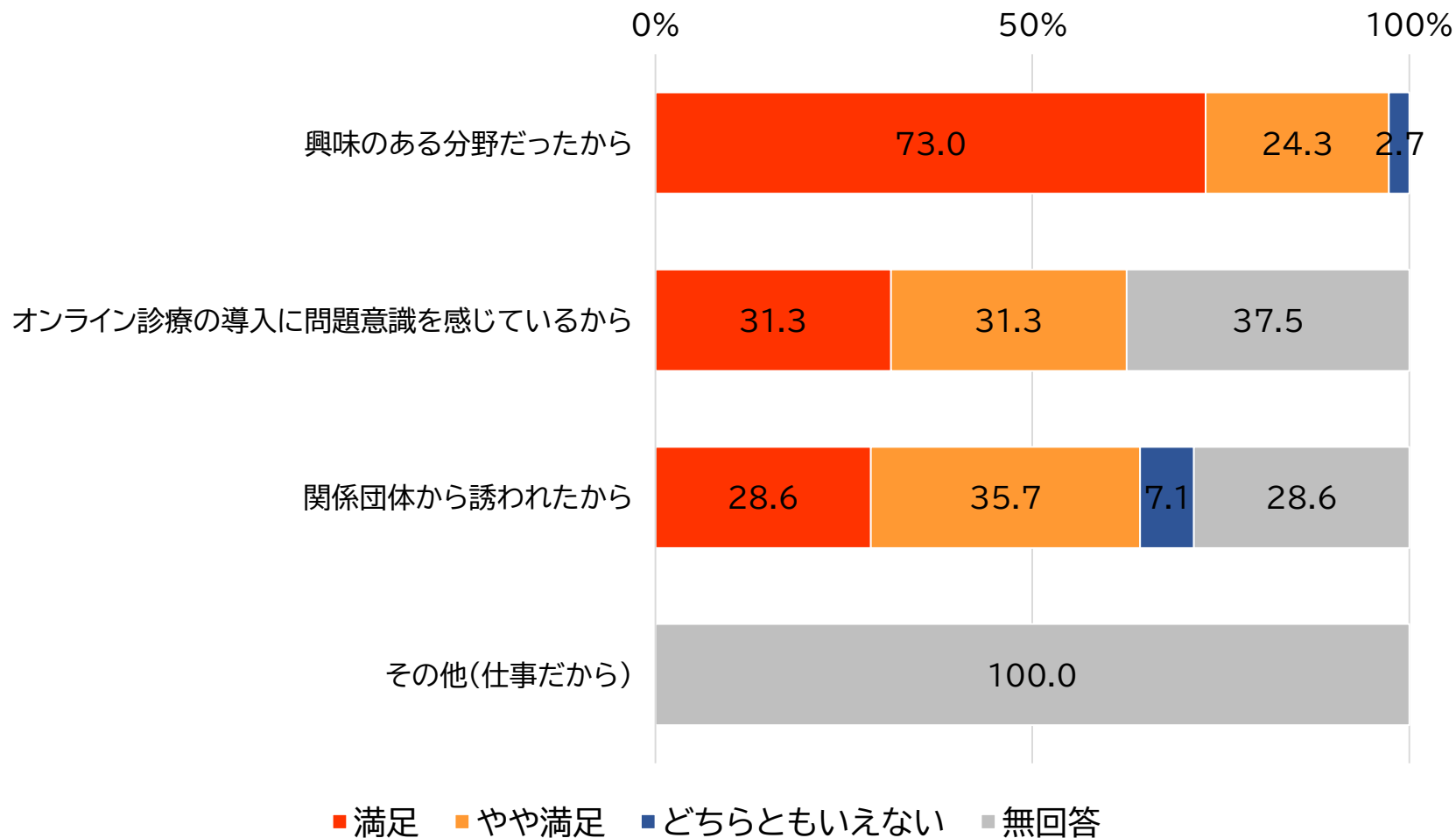
区分	会場
医師、歯科医師	9
医師以外の医療関係者	15
DX関連事業者	2
行政職員	29
その他	2
合計	69

参加理由（複数回答あり）



参加者アンケートの結果

参加理由別の満足度



参加者アンケートの結果

「満足」と回答した理由

- 周囲では不適切なオンライン診療ばかりで良い印象を持てていなかった。その潜在的可能性を知ることができた。
- サロンなどで実験的にやることや、介護施設でまずはオンラインで繋いで気軽に相談するなどの、具体的な提案が聞けた。
- 先進的な山口県の実例・実証を聞くことが出来ました。また岡山県医師会様の活動や地域の取組等を聞くことができました。自分の中で課題としての整理に役立てたと思っています。
- オンライン診療最先端の現在地と課題を分かりやすくご報告いただけたこと。
- 県医師会が応援しているのが良いですね。薬剤師も歯科医師も参加しているのがさらに良いですね。
- 意識が変わりました。
- 気軽に使えるようにしていけると確認できたから。
- 普段授業で携わらない分野なので勉強になった。
- 異次元の人材不足時代が訪れることは確実であり、オンライン診療は個人の尊厳を守るためにも必要であると感じました。
- 原田先生の講演に啓発された岡山県行政関係団体で積極的に推進してほしい。
- 様々な角度から説明があったから。
- 今後必要になっていくDXを考える機会となった。
- オンライン診療の現状と課題がよく分かった。（回答多数）
- 先進的な取組を、具体的に知ることができた。（回答多数）
- 講師のお話が大変分かりやすかった。（回答多数）

「やや満足」と回答した理由

- どのように広げるかの参考になりました。
- 具体的なやり方、問題点などが浮きでてきたと思います。
- オンライン診療は、あくまでも対面診療の補完（プラスアルファ）であるべき。
- オンライン診療で全てを解決できるわけではないことが理解できたから。
- 今後の地域医療構想や医療計画を考えるうえで参考となった。
- いろいろな視点からの取り組みが紹介され、進んでいるところがあり安心する部分もあり、進んでいないところに不安にもなりました。
- 対面診療の補完として、中山間地域や離島の医療を守るツールとしてDX活用を進める意識を感じられたので。
- 都心部でのDXのあり方についても取り組み事例があれば聞いてみたかったです。
- 医療DXについて少し身近に感じることができました。
- 講師の話をもっと詳しく聞きたかったです。
- 話の難しい事例があった
- 先進的な取組を、具体的に知ることができた。（回答多数）
- 講師のお話が大変分かりやすかった。（回答多数）

参加者アンケートの結果

シンポジウムに参加して、オンライン診療にどのような認識を持たれましたか？

医師

- ・ 幾ばくかの副作用はあれ、積極的に推進、ないしは足を引っ張らないようにしたい。
- ・ 医師・患者の関係が成り立っていることが大前提と改めて感じた。
- ・ 少しずつでも準備していく必要がある
- ・ 各ステークホルダーが協力する必要がある
- ・ 積極的に関わっていくべきことと認識しました。
- ・ ICTを活用した医療介護を積極的に推進すべき。
- ・ ヘキ地医療に限らない reverse innovation の可能性に気づかされました。

医師以外の医療関係者

- ・ 受診機会を広げるきっかけになると思いました。
- ・ 今後、どんどん進めていかないといけないと思った、
- ・ 必要な手段である。
- ・ 近い将来、必要な事と思われるが問題点を解決しなければならないと思いました。
- ・ ヘキ地医療には、有効だと感じた。
- ・ 中核的な推進組織が支援すれば、案外早く進むのではないか。
- ・ 令和8年4月1日の法改正後は、いろいろとスポットライトを浴びてくるだろうと感じた。
- ・ ヘキ地の医薬品提供体制の構築が重要だと考えた。
- ・ 課題はたくさんあると思いますが、1つ1つクリアして取り組んでいくしかないと思いました。人が減る分どうにかせねば、、、という思いです。
- ・ 今後必要な医療提供体制であると考えています。
- ・ 特化するのではなくて、組合せとして有効に使っていくもの。引き算ではなく足し算として考えるという認識となった。（複数回答）

シンポジウムに参加して、オンライン診療にどのような認識を持たれましたか？

- ・ 気軽な感じで普段から実生活の中に取り込んでいきたい。プラスアルファとして導入していきけるようにすることも重要で、これは医療側も行政側も地域住民側も自分のこととして取組を始めなければいけない。
- ・ 今後導入が必須であること。電子処方箋を含めた服薬指導や医薬品の配送など、薬局の取組についても薬剤師会から話を聞いてみたいです。
- ・ オンライン診療は足し算として、多職種とも連携しながら、どう組み合わせるかが大切
- ・ 医師不足に対する医療の確保としてオンライン診療を考えていました。しかし、原田先生が仰られた「足し算」の言葉が凄く印象的であり、そうした活用方法を考えていくことが大事だなと思いました。その為にも地域の状況をもっと知らなければと思いました。また、面で考えること岡山県全体で取り組んだ方が医療提供の目的として効果があるのかなと感じました。
- ・ 今後、人口減少と医師・医療機関の減少が明らかな中で、真剣に取り組む必要がある。
- ・ 環境整備が必要
- ・ まずは、住民がいろいろICTを使って成功体験をもつことを促していきたい。また看護をはじめコメディカルの教育の中にICTの実習や住民とのつながりの機会を作ることも大切だと思った。
- ・ 有効性を改めて感じたが、導入に向けた課題解決の点も知りたかった。
- ・ 講演のテーマは、顔の見える関係を前提に、その先にオンライン診療があるように感じたが、今後顔の知れた関係となる前にオンライン診療を始めることになったら、オンライン診療が薬を出すだけの手続きとなってしまうのではないかと思う。最後に原田先生が「対面VSオンラインではない。比率が時代によって変わるんだろう」と言われましたが、そうだと思う。
- ・ 全般的に実施には克服すべきものがあるが、将来的には実施する必要がある。

シンポジウムに参加して、オンライン診療にどのような認識を持たれましたか？

行政関係者

- ・ 都心部で先行しているオンライン診療と、当県などで求められるオンライン診療は性質が異なりますが、地域を支えるうえでどのように進めていくか（高齢者に使いやすく、すべての人に使いやすく）考えていかないといけないと思いました。
- ・ 便利なのでシステム面や進徳面で誰もが使いやすいものになって、普及してほしい。
- ・ 対面診療の補完ツールとして組合せで有効になる地域医療の持続性を感じた。
- ・ スピード感を持って進めるべきだと思った。
- ・ みんなで取り組んでいかないと。身近に感じられました。
- ・ 住民の皆様に抵抗感なく受け入れていただく工夫が必要。（高齢者）
- ・ 今後の医療体制維持に不可欠な取り組みだと感じました。
- ・ オンライン診療することで対面診療の回数が減るのではなくプラスになるように使うという言葉は、ぜひそのように機能してほしいと思います。
- ・ 医師の偏在の問題にも資するものであると感じました。

その他

- ・ これからの社会を維持していくためにも、必要不可欠なものであると感じました。
- ・ オンライン診療サービスの受け手として現状の進捗を知りたくて参加させていただきました。シンポジウムではへき地・中山間地域の医療課題解決のひとつがオンライン診療の推進ということでしたが、ICT、AI技術によるさらなる技術開発によって、今後だれでも・どこでもオンラインによる医療サービスを受けることができると期待できました。高齢単身世帯がますます増加する近未来には是非とも必要なインフラです。ありがとうございました。
- ・ 将来が不安。よりよい社会になるように対応をお願いします。
- ・ 医師不足には必須